

令和元年度第3回障害者支援センター運営委員会議事録

■開催日：令和元年12月2日〔月〕14時～15時

■場所：横浜市健康福祉総合センター8階 大会議室8F

■出席者：委員総数16名中15名出席

谷口(政)委員長、大塚委員、松島委員、渋谷委員、永田委員、大友委員、根本委員、長谷山委員、下山委員、谷口(実)委員、早坂委員、室津委員、小久保委員、茨木委員、川島委員

(オブザーバー)

横浜市3名（品田係長、大田原氏、飯野係長）

横浜市社会福祉協議会3名（品川総務部長、加藤総務課長、田邊地域活動部長）

顧問弁護士（内嶋弁護士）

■次第

〔知久事業推進課長〕

定足数を確認し、運営委員会の成立を報告。

〔森センター長〕

今日も猛烈な雨で、こういう災害のような雨がここのところ続いている。我々が守るべきものは何かというと、この自然災害にも焦点を当てて考えないといけないと思っている。

横浜市内で第4期障害者プランの策定が始まり、皆さんのところにも意見聴取の話が出ていると思う。第4期は令和3年がスタートになるが、これからの長い障害者の生活を考えると、この障害者プランの策定はとても大切なことになる。その点にも十分気を配っていただいて意見を出していただければと思っている。

今日は以前からご相談している移動情報センターを中心に進めるが、皆さんの忌憚ないご意見を伺いたいと思っているので、よろしく願いたい。

〔知久事業推進課長〕

以降の進行について、運営委員長が議長を務める旨を報告。

〔谷口(政)委員長〕

それでは、早速議事に入らせていただく。

前々から論議を重ねていただいている「移動情報センターおよび福祉バス運行事業について」、事務局より説明をお願いします。

〔大貫事務室長〕

資料1に基づき、第2回運営委員会での意見について、ワーキングチームで検討しまとめた回答の内容を説明。

〔谷口(政)委員長〕

今回の運営委員会での議論が最後で、事業が正式に移管されるということだろうと思う。ご意見があれば発言していただきたい。

〔根本委員〕

回答では福祉バスのことについてあまり書いていないように思うが、福祉バスの将来のあり方についてはいかがか。

〔大貫事務室長〕

福祉バスについて現時点で要望が出ているものとして、一つは車いすの座席数が少ないということ。もう一つは、参加人数も少なくなって、マイクロバスの方が希望が多く、競争率が高くなっているため、現在は1台のマイクロバスの台数を増やしてほしいということ。今後、事業を移管した上で運行業者等と検討し、できる限りこうした要望に沿って対応していきたいと考えている。

今回は、これから移管を受けた上で、福祉バスも含めて課題を整理していくと回答させていただいた。

〔根本委員〕

人数が少ない20名～25名の2団体を合わせて一緒に大型バスで連れて行くというのがコーディネートの考えかと思うが、そうしたことについては考えていないか。

〔大貫事務室長〕

年度当初には決まってしまうスケジュールや行く場所など、それぞれの団体の考え方や希望が重なっているとは限らないが、もしそうしたコーディネートが可能であれば検討していきたいと考えている。

〔谷口(政)委員長〕

他にはいかがか。

〔渋谷委員〕

移管した後も市社協全体の取組として継続するとあるが、その内容を説明していただきたい。

〔大貫事務室長〕

これまでワーキングチームという形で、総務部、地域活動部、区社協が参加し、今回の回答もそのメンバーで検討した。今後もきちんと連携していく。どのような形で連携していくかは、また具体的に詰めていきたいと思っている。

〔渋谷委員〕

具体的にどうするかは決まっていないということか。

〔大貫事務室長〕

今は地域活動部で実施しているので、まずは現状の把握と課題の掘り下げが必要だと考えている。その

上で、運営委員会にも報告しながら、関係部署ときちんと協議体を作って一緒に検討し、改善に努めていきたいと考えている。

〔谷口(政)委員長〕

他にいかがか。

〔長谷山委員〕

今はまだ決まっていないとのことだが、実際に移管した時に職員が何人来て、どういう構成でやっていくのかということも出していただけないと納得できないところがある。そこも具体的に報告していただければと思う。

〔大貫事務室長〕

市社協全体の体制は、予算が確定して最終的に決まる。現時点で体制を明確にするのは難しいため、約束という形できちんと検討しているという報告をさせていただいた。これからもきちんと検討していく。

〔谷口(政)委員長〕

他にいかがか。

〔室津委員〕

きちんと検討し、きちんと結果を出して、本当にきちんとしたものができ上がるのか。ここで決定して、結果としてきちんとなくなっていなかったらどうするのか、というのが一番心配な点である。

今、障害者のグループホームは相当危機的な状態にある。課題としては、若かった入居者も高齢化、重度化して、非常に支援が難しくなっているということがある。また、社会的にもっと支援が困難な人の受け入れをグループホームとして求められてきていると思うが、グループホームを支援する支援センターの役割や体制が不十分であると、そのグループホーム自体も非常に心配な状態になってしまう。体制の強化が本当に差し迫って必要だと感じている。さらに、職員の応募が本当に来ない。泊りがあり、土日仕事があるということを選ぶ人が本当に少なくなっていて、今のままのグループホームを維持できるのかという危険な状態が起きてきている。

かつて創業した人たちから代が変わり、きちんと引き継がれるのかということも含めて、支援センターがA型として担ってきた部分について、色々な問題が発生をしていると思う。それは作業所にしても活動ホームにても同じ問題だと思うが、どんどん事業を増やしていった結果、支援センターの支援する力が弱まるということが一番心配している。今まで以上に法人への支援等をしていかないとならない時代になってきていると思うので、移動の問題だけではなくその点も含めて、本当に今まで以上の体制を組んでいけるのかということについて、どこでどう議論をしてその方向を出せるのかということが一番大切だと思っている。

〔大貫事務室長〕

まず支援センターの役割として、室津委員の言われたことがベースだと思っている。そのベースの部分にきちんと取り組んでいく。支援センターだけでできなければ、市の協力も仰いでいく。そのためには皆様の各団体の協力もいただいて要望なりをいろいろな形で出していくことが必要だと思っている。

そのベースの上に移動情報センターを受けるわけで、今の既存の人の戦力を取られるということは考えていない。移動情報センターは、十分にこなせるだけの体制をきちんと組んだうえでやっていく。それは当然の話としてこの半年間協議を進めている。

〔谷口(政)委員長〕

この課題は先が重い。移動だけに限ってみても、個別的な対応が多く求められてくるのではないかと予想する。移動をきちんと保障している国は、ドアツードアの個別のニーズに対応している。そういう支援の時代になってきていると思う。また、冒頭にあった大型バスの運行も、ニーズとしてあるのだらうと思う。

個別の課題を支援センターが受けて立ちながら、どうしていくかということと一緒に悩まなければならない時代なのではないか、先々支援センターは大仕事を負うのだなという気がしている。

運営委員会でもこれからいつも議題になっていくのではないかなと思うが、この辺りでよろしいか。

募集しても応募者がいない、スタッフがいないというのは辛い話だ。

〔室津委員〕

工夫して職員を集めることができる場所もあると思うが、全部がそうなっていけるかと考えると非常に難しいと思う。その意味で今までは支援センターが足りないところを随分補って運営をしてきているので、その支援センターの力が弱まるのが起きてしまうと、本当に住む場所を失う障害者が出てしまう。

法人を守りたいのではなくて、入居者の生活を守るために何をしなければいけないのかということだと思うので、ぜひ支援センターでしっかり取り組める体制をさらに充実していただきたいと思っている。

〔谷口(政)委員長〕

この議題は長く続きながら展開策を考えていくようになるのだと思う。よろしくお願ひしたい。

それでは、次の報告事項の感謝の集いについて、事務局から説明いただく。

〔知久事業推進課長〕

資料2のとおり、令和2年「感謝の集い」を開催する。委員の皆様にもご予定をいただきたい。また、被表彰者については、運営委員会終了後に開催する感謝状被表彰者選考委員会において決定する。

〔谷口(政)委員長〕

例年開かれている感謝の集いだが、表彰される方の名前を読み上げていくときに、「こういう活動をしてきた」というのをもう少しご紹介いただけたらいいのかなという感想を抱いていた。

その他にいかがか。なければ、その他についてお願ひする。

〔知久事業推進課長〕

席上に「お元気ですか」189号を配布させていただいた。後ほどご覧いただければと思う。

横浜障害者共同受注総合センターわーくるについて、横浜市から事業を受託して、今年度で5年目となるが、来年度の受託事業者については、横浜市がプロポーザル形式で公募することになった。すでに手続きが進んでおり、支援センターも応募している。選考結果は1月に通知される予定で、次回の運営委員会でご報告させていただく。

運営委員について、平井委員が亡くなられた後、欠員となっている。後任の委員については、選出母体のセイフティーネット横浜で現在選任を進めている。同じく、今期をもって退任される谷口委員長の後任の委員についても、現在選任を進めている。

また、表に「障害福祉支援事業所における送迎支援の実態調査結果の報告」とある資料をお配りさせていただいた。こちらは市作連の谷口代表からの情報提供になるため、谷口委員からご説明をいただく。

〔谷口(実)委員〕

障害福祉分野では、給食体制加算や送迎加算など、すでに2021年度に向けた報酬改定、報酬の抑制・削減の動きが厚労省で行われている。そうした中、きょうされんという全国団体を中心にして、送迎支援についての実態調査があり、その報告書ができ上がったので、概要版をお配りさせていただいた。

詳細は後ほどご覧いただければと思うが、送迎加算があっても8割以上の事業所が赤字という実態である。また、厚労省の調査では、送迎を行っていない事業所や自力で通所できる人も数に入れて、送迎加算の算定割合が低くなるように算出しており、送迎加算見直しの根拠づくりをしている。

その他、給食体制加算等の問題もあり、2021年度の報酬改定に関する緊急署名運動に市作連も自分たちのこととして協力をしている。財政が厳しいということで、国は報酬改定・加算廃止を前提に進めており、横浜市は頑張ってくれているが、私たちが根本となる国の動向も見ながら頑張っていきたいと思っている。

旧優生保護法の関連で一時金支給法という法律が作られているが、そのパンフレットもお配りさせていただいた。「わたしも子どもをもちたかった」と書いてあるが、子どもをもつ・もたないというよりも、そういう選択をできる・できないというのが人権にかかわるところ。自分にわからないように、自分が知らないうちに不妊手術をされ、そのことを後で知って、その時に何もできなかった自分をとても悔いているというお話を聞くとやはりとても胸を打たれる。一時金支給法という、謝罪ではなく、お金を払う法律というのもどうなのだろうと感じさせられた。

また、今月、市作連の事務所を大通り公園並びのシェアオフィスに移転する予定。正式に決まったら改めてご報告させていただく。

最後に、来年のきょうされんカレンダーをお持ちした。よろしければご協力いただきたく、お願いしたい。

〔谷口(政)委員長〕

送迎支援については、こうしたところにもいろいろとあるのだなと感じた。

何かお尋ね等いかがか。

〔大友委員〕

わーくるのプロポーザルに応募したとのこと。わーくるにも問題はあと思うが、工賃アップや作業所の支援等課題がある中で、大きな役割を果たしているのも、全力をあげて継続できるようにしていただきたい。支援センターだけが孤立無援でやっているわけではないと思うので、社協全体として継続できるような取組をぜひお願いしたい。

〔大貫事務室長〕

きちんと受託できるように、社協をあげて体制も強化するという形で応募をさせていただいた。一つひとつの事業を確実にこなすためには、まず体制が必要で、そこをきちんと踏まえないと職員に負荷がかかっ

てしまう。そうならないようにきちんと社協をあげて対応していく。

〔谷口(政)委員長〕

他にはいかがか。

なければ、次回の日程調整をお願いします。

〔知久事業推進課長〕

皆様のご都合がよろしければ、3月23日(月)午前10時で予定させていただきたい。

〔谷口(政)委員長〕

ご都合はいかがか。特になければ3月23日(月)午前10時でご予定いただきたい。

先ほど報告もあったが、私は次回で退任をさせていただく。後任を推薦していくのはおこがましいので、どうぞ皆様方でよろしくご決定をいただければと思う。よろしくお願ひしたい。

では、これで運営委員会を終わらせていただく。